

# 拉致問題ニュース

## 特定失踪者とは？

### 何故 **拉致被害者** として認定されないのか？



特定失踪者 藤田 進さんの場合 4

S 31 (1956). 6. 16 生 (当時 19 歳) S 51 (1976). 2. 7 失踪

県立浦和高校卒 東京学芸大 1 年 (19 歳) のときアルバイトに行く為、  
川口市内の自宅を普段と変わりなく出かけたまま行方不明になる

脱北者が持ち出した 1 枚の写真、「法人類学的に見て同一人の可能性が極めて高い」との鑑定結果に加え、北朝鮮国内で「藤田進さんを見た。工作員養成機関で日本人教官だった」との証言も得られた。更に、藤田進さん拉致事件には、実行犯 (A 氏) の証言も存在するのである。

#### A 氏証言の続き

川口から 30 分ほどで大宮氷川神社に到着。4 台目の車の中から両側を抱えられた男性が連れ出された。藤田進さんだった。藤田さんは、精神病患者などが暴れないように着せられる拘禁服のような保護服を着ていた。クスリを打たれていたらしく、足元もおぼつかないほどフラフラの状態意識もないようだった。そのまま都内から一緒にきた 2 台のうちの 1 台の車の後部座席に乗せられて、藤田さんを支えるように、2 人の男が両側に座った。

“作業”は一瞬で終了した。その後都内の N 病院へ戻り、藤田さんは病院 2 階にある監禁部屋へ入れられた。その部屋は一般職員からは判らないように、扉は壁のように加工されている秘密部屋となっていた。A 氏はそれから、3 日間、藤田さんに食事を運ぶ。

2 月 8 日、拉致の翌日、藤田さんの意識は薬の影響で朦朧としており食事もとらなかつたという。しかし、その日の夜、意識がしっかりしてくると藤田さんは慟哭するように大声で泣き叫んだという。「どこへ連れて行くんだ！」「なんだ、これは！」という声が今も A 氏の耳に強く残っている。

裏面へつづく

その後も会話はなく、食事は摂るようになったものの、藤田さんは身動きが制限される保護服を着たまま、動かなかった。叫ぶこともなくなった。

4日目、「ここはどこですか?」「自分は何でここにいるんですか?」と涙をいっばいに溜めた脅えきった目でA氏に聞いた。A氏と藤田さんとの最初で最後の会話となった。その日の夜、藤田さんはN病院からいなくなった。A氏は後に病院関係者から「彼は同志同胞の繁栄のため、新潟から万景峰号(マンギョンボンゴウ)で北朝鮮へ渡った」と聞かされた。

2007. 4. 21 『週刊現代』より抜粋&要約

## 藤田さんは何故狙われたのだろうか?

行きあたりばったりで、その辺の道路を歩いている人を拉致したりはしない  
これは藤田さんに限ったことではない  
本国、北朝鮮から下された指令に従い、  
目的に応じたターゲットを特定し実行するのである



看護師・印刷工・電気系技術者・銀行系職員・学生

拉致された人達には、上記の職種に明らかな偏りが見られる  
(曾我ひとみさんは拉致された当時、看護学校の学生)

藤田さんは、学校の教師になる夢を持ち、大学も学芸大学へ進学、  
北朝鮮で目撃されたとき、工作人員養成機関で、工作人員に日本語・日本の習慣・  
礼儀作法・その他工作人員が日本人になる為に必要なことを教える役目を負わされ、  
しかもかなり高位の教官だったようである



藤田さんの場合、川口市内にある朝鮮総連系の診療所が関わっていると言われる  
拉致の数年前から、その診療所の医師と藤田さんは親しかったという  
**拉致は、何年も前から、国内工作人員の手引きにより周到に計画されている**  
対象人物の仕事のシフト、生活習慣なども詳細に調べられている

このようなことが日本国内で日常的に行われていたことをどう思われるだろうか?

拉致問題解決の為に、あなたにもできることがあります

拉致問題を知ってください 知ったことを知らないでいる人に伝えてください

ブルーリボンをバッグ・帽子・洋服などにつけてください 拉致問題のアピールになります

**ブルーリボンの青は、被害者と家族を隔てる日本海の青、被害者と家族を結ぶ空の青** です